



東北電力グループ **NOW**

コミュニケーションブック2019





取締役会長
海輪 誠

取締役社長
社長執行役員
原田 宏哉

ごあいさつ

皆さまには、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、東北電力は、1951年の創業以来、公益企業としての使命感と地域への強い思いを片時も忘れることなく、グループ一体となって、地域の発展とともに歩んでまいりました。電気事業を取り巻く環境は時代ごとに大きく異なっておりますが、いつの時代も「良質で安定した電気をお届けする」ために、様々な経営課題に立ち向かい、新しい価値を生み出すことに常に挑戦し続けてまいりました。

現在、当社グループはかつてないほど激しい事業環境の変革期を迎えております。そのような中で、東北・新潟をフランチャイズに事業を営む電力会社として、東日本大震災からの復興支援に取り組みながら、全面自由化された電力小売市場での競争の激化や、2020年4月の送配電部門の法的分離にスピード感をもって適切に対応していくため、2017年1月に策定した「東北電力グループ中期経営方針(2017～2020年度)」に基づき、各施策を着実に展開しております。

特に2019年は、中期経営方針の目標達成に確かな道筋をつけていくため、「利益創出力」の徹底強化、「生産性・効率性」のさらなる向上、「新たな事業機会」への挑戦、「強固な“経営基盤”の確立」の4つの力点を設定して取り組んでまいりました。この力点のもと、発電・販売一体の総合力発揮による利益最大化、働き方改革の推進、再生可能エネルギー事業の拡大、CSR経営の推進など、持続的な成長に向けた様々な取り組みを展開し、企業価値の向上を目指してまいります。

今後とも当社事業へのご理解・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2019年11月

東北電力グループスローガン

より、そう、ちから。

東北電力グループでは、これからも地域とともに成長・発展していくため、お客さま・地域の声にしっかりとお応えしていくという企業姿勢を示すため、「より、そう、ちから。」をグループスローガンとして設定いたしました。

このスローガンには、「お客さま一人ひとりに“より沿う”サービスを提供していく」、「創立以来の変わらない想いを胸に、地域に“寄り添う”取り組みを継続していく」という当社の2つの想いを込めています。

グループスローガン「より、そう、ちから。」に込めた2つの想い

より、そう、ちから。

より沿う

お客さまのご要望に
「より沿う」サービス
を提供します。

寄り添う

東北と新潟の成長・発展に
しっかりと「寄り添う」
取り組みを展開します。

東北電力だからお役に立てる、より沿う力。

それは、お客さまひとりひとりを見つめライフスタイルに合った快適な暮らしを提案していくこと。

そして、これからも地域に、寄り添う力。

それは、創立以来の変わらない想いを胸に地域とともに発展しつづけること。

心からの感謝の気持ちと

大きなこころざしを持って ひとりひとりへ、そして地域へ。

私たちは、皆さまのお力となれるよう、取り組んでまいります。

Contents

01 ごあいさつ	2 “生産性・効率性”のさらなる向上
02 東北電力グループスローガン	13 みんながイキイキと働く元気な会社を目指して
03 これからも、地域とともに成長していくために	3 “新たな事業機会”への挑戦
05 お知らせ	15 さらなる成長に向けた挑戦
1 “利益創出力”の徹底強化	4 強固な“経営基盤”の確立
07 お客さまのニーズにより沿うサービスのご提案	17 これからも、安定した電気をお届けするために
09 経済性・環境性に優れた最適な電源バランスを目指して	19 地域の一員として地域に寄り添い、ともに成長していく
11 安全性の確保を大前提とした原子力発電の活用	21 東北電力グループの事業活動

これからも、 地域とともに成長していくために

東北電力グループは、創立以来受け継がれている地域への思いや使命感、「より、そう、ちから。」を実践することでお客さまや地域の皆さまとの間で築かれる信頼関係を基盤に、豊かな暮らしや経済の発展、地域課題の解決に寄り添いながら、地域とともに成長してまいります。

持続可能な地域・社会の実現

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

SDGs[※]への貢献

世界を変えるための17の目標

ステークホルダーとの共創を通じた、
地域課題・社会課題解決のための果敢な挑戦

事業環境



政治

電力システム改革の進展
(小売自由化/法的分離)
エネルギー基本計画改定



経済

再生可能エネルギーの導入加速
消費スタイルの変化
ESG投資の加速
エネルギー小売競争の激化



社会

自然災害の頻発
人口減少・少子高齢化
地球温暖化の進行
多様性ある社会づくりの促進



技術

分散型エネルギーシステムの導入
IoT技術・AIの発展

東北電力グループ中期経営方針

2017~2020年度

カ点
1

お客さま・地域社会の声にお応えする

お客さまのニーズにお応えする提案活動	原子力発電所の安全性向上に向けた取り組み	最適な電源構成によるコスト競争力の強化
低炭素社会の実現	送配電事業における安定供給と効率化	地域の復興・発展への貢献

カ点
2

成長に向けた新たな事業機会を追求する

東北・新潟域外での電力販売	海外事業の拡大	ガス事業の強化
電力・燃料のトレーディング事業の展開	再生可能エネルギー事業の推進	将来の事業領域拡大に向けたイノベーションの追求

カ点
3

変革実現により強固な経営基盤を確立する

財務体質のさらなる改善	競争に立ち向かう組織への変革
多様な人材の活躍推進	CSRの着実な取り組み

グループスローガン

より、そう、ちから。

より浴う

寄り添う

信頼関係

お客さま・地域

2019年の経営展開にあたっての力点

1 “利益創出力”の徹底強化 P.07~12

発電・販売一体の総合力発揮による利益最大化
原子力発電所の再稼働に向けた着実な取り組み

2 “生産性・効率性”のさらなる向上 P.13~14

コスト削減・効率化の一層の追求
働き方改革「みな、おす、ちから。」の推進

3 “新たな事業機会”への挑戦 P.15~16

再生可能エネルギー事業の拡大
ガス事業の強化
デジタルイノベーションの取り組み推進、海外事業の拡大

4 強固な“経営基盤”の確立 P.17~20

法的分離への対応とさらなる基盤強化に向けた取り組み
CSR経営の推進
安全確保・業務品質向上への不断の取り組み、安定供給の確保

対応する主なSDGs



※SDGsの達成に向けて

持続的な開発目標 (SDGs) とは、2015年9月に開催された国連サミットで採択された国際目標で、持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成されています。東北電力グループにおいても、日々の業務や中期経営方針で掲げた施策を遂行することで、SDGsの達成に貢献していきます。

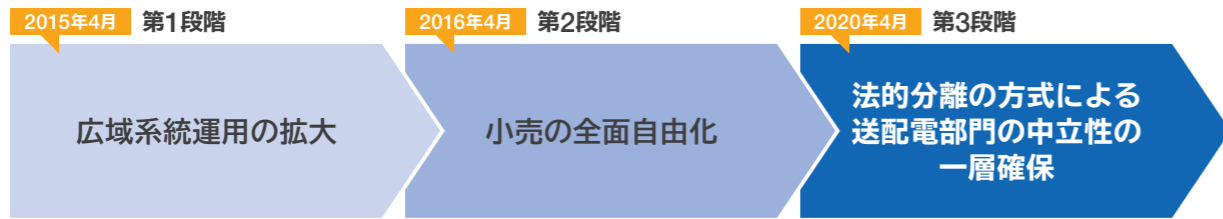
送配電部門は2020年4月 「東北電力ネットワーク株式会社」となります。

2020年4月、電気事業法の改正に伴い、発電事業および小売電気事業を運営する「東北電力株式会社」のもと、送配電部門を「東北電力ネットワーク株式会社」として分社化します。



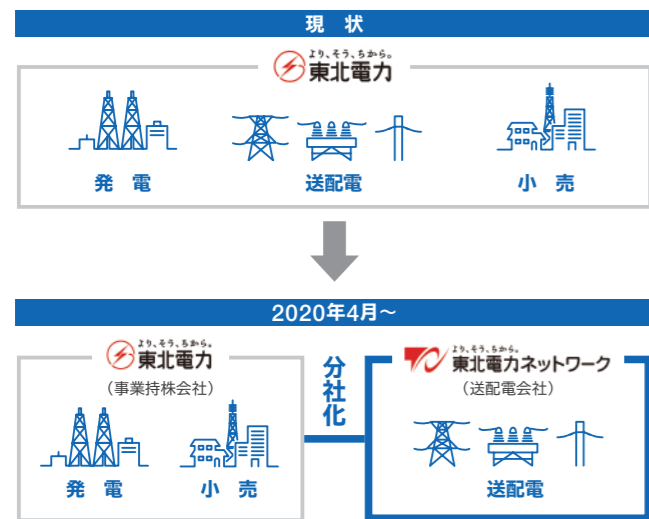
電力システム改革[※]の一環として電気事業法が改正され、2020年4月より送配電部門の中立性・公平性を一層確保する観点から、送配電部門の法的分離が行われます。これに伴い、一般送配電事業者が発電事業や小売電気事業を行うことが制限されるため、分社化するものです。

※ ①電力の安定供給の確保、②電気料金の最大限の抑制、③需要家の選択肢や事業者の事業機会の拡大を目的とし、下のように3段階に分けて電気事業の改革が進められています。



当社では、「発電」・「送配電」・「小売」の3つの事業を一貫して担ってまいりました。2020年4月からは、事業持株会社である「東北電力株式会社」のもとに、100%子会社である送配電会社「東北電力ネットワーク株式会社」が送配電事業を担うこととなります。

※新潟県の佐渡島・粟島、山形県の飛島は「発電」「小売」事業も東北電力ネットワーク株式会社が担います。



Q&A

- Q** 私たちにどんな影響があるの？

A ご安心ください。これまでと変わることなく電気をお使いいただけます。また、これまでと変わらぬサービスをお客さまにお届けするとともに、これからも皆さまのお力となれるよう、取り組んでまいります。
- Q** 停電や災害時の対応は？

A 引き続き、「東北電力ネットワーク株式会社」が、東北6県および新潟県における電力の安定供給を果たしていくとともに、災害時には、両社で連携を取りながら、復旧対応を行ってまいります。

各県の事業所一覧

2020年4月の分社化に向け、地域の事業所を役割ごとに再編いたしました。

東北電力

電気のご契約にかかわる各種手続き
最適料金プランや、オール電化のご提案 等

東北電力ネットワーク

送配電設備の保守・運用
電力量計（メーター）の検針 等

各県の事務所

青森県

東北電力

- 1 青森支店
- 2 むつ営業所
- 3 弘前営業所
- 4 八戸営業所

東北電力ネットワーク

- 1 青森支社/青森電力センター
- 2 むつ電力センター
- 3 五所川原電力センター
- 4 三沢電力センター
- 5 十和田電力センター
- 6 弘前電力センター
- 7 八戸電力センター

岩手県

東北電力

- 1 岩手支店
- 2 岩手三陸営業所
- 3 岩手県南営業所

東北電力ネットワーク

- 1 岩手支社/盛岡電力センター
- 2 二戸電力センター
- 3 久慈電力センター
- 4 宮古電力センター
- 5 遠野電力センター
- 6 釜石電力センター
- 7 花北電力センター
- 8 水沢電力センター
- 9 大船渡電力センター
- 10 一関電力センター

秋田県

東北電力

- 1 秋田支店
- 2 秋田県北営業所
- 3 秋田県南営業所

東北電力ネットワーク

- 1 秋田支社/秋田電力センター
- 2 大館電力センター
- 3 能代電力センター
- 4 鹿角電力センター
- 5 大曲電力センター
- 6 本荘電力センター
- 7 横手電力センター

山形県

東北電力

- 1 山形支店
- 2 庄内営業所
- 3 最上村山営業所
- 4 置賜営業所

東北電力ネットワーク

- 1 山形支社/山形電力センター
- 2 酒田電力センター
- 3 鶴岡電力センター
- 4 新庄電力センター
- 5 天童電力センター
- 6 長井電力センター
- 7 米沢電力センター

宮城県

東北電力

- 1 宮城支店
- 2 宮城県北営業所
- 3 石巻営業所
- 4 仙台北営業所
- 5 仙台南営業所

東北電力ネットワーク

- 1 宮城支社/仙台電力センター
- 2 気仙沼電力センター
- 3 栗原登米電力センター
- 4 古川電力センター
- 5 石巻電力センター
- 6 仙台北電力センター
- 7 塩釜電力センター
- 8 仙台南電力センター
- 9 岩沼電力センター
- 10 白石電力センター

福島県

東北電力

- 1 福島支店
- 2 会津若松支社
- 3 郡山営業所
- 4 白河営業所
- 5 いわき営業所

東北電力ネットワーク

- 1 福島支社/福島電力センター
- 2 会津若松電力センター
- 3 喜多方電力センター
- 4 相双電力センター
- 5 郡山電力センター
- 6 須賀川電力センター
- 7 田島電力センター
- 8 白河電力センター
- 9 いわき電力センター

新潟県

東北電力

- 1 新潟支店
- 2 新発田営業所
- 3 新潟県中央営業所
- 4 長岡営業所
- 5 柏崎営業所
- 6 上越営業所

東北電力ネットワーク

- 1 新潟支社/新潟電力センター
- 2 村上電力センター
- 3 新発田電力センター
- 4 新潟電力センター
- 5 佐渡電力センター
- 6 新潟県中央電力センター
- 7 長岡電力センター
- 8 柏崎電力センター
- 9 十日町電力センター
- 10 魚沼電力センター
- 11 上越電力センター
- 12 糸魚川電力センター

お客さまのニーズにより沿う サービスのご提案

当社では、お客さまの多様なニーズにお応えし、豊かな暮らしをサポートする様々なサービスの提供に努めています。

もっと快適に！もっと便利に！暮らしにプラス・ワン！

当社は、お客さまの多様なニーズにお応えし、お客さまのより豊かで快適な暮らしや、安全・安心な暮らしの実現をサポートするため、暮らしのトータルサービス「より、そう、ちから。+ONE(プラスワン)」を展開しています。

「より、そう、ちから。+ONE(プラスワン)」は、当社が展開するご家庭向けサービスの総称で、これまでご提供している電気料金プランや会員制Webサービス「よりそうeねっと」に加え、暮らしサポート「マカプコンシェルジュ」と、固定価格買取制度の買取期間満了を迎えた家庭用太陽光発電向けサービス「ツナガルでんき」をご用意しています。



「エグゼムズ(exEMS)」で最適な電気の使い方を支援します

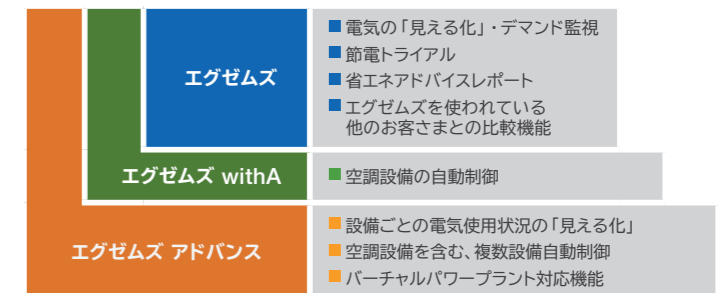
高圧で電気をお使いのお客さま(事務所ビル・商業施設・工場等)向けに、最適な電気の使い方を支援するエネルギーマネジメントシステム「エグゼムズ(exEMS)」が本格サービスを開始しました。

エグゼムズは、さらなる省エネルギー・省コストを実現するため、IoTやAIを活用することにより、最大需要電力(デマンド)や使用電力量の変化など、電気の使用状況を見える化するするとともに、外気温の影響等によるデマンドの変化を24時間先まで詳細に予測することなどが可能なシステムです。

また、空調設備を自動制御する「エグゼムズ withA」や、空調設備も含めた複数設備を自動制御する「エグゼムズ アドバンス」もラインアップに追加しており、当社のエネルギーソリューションサービスの核として期待されるサービスとなっています。



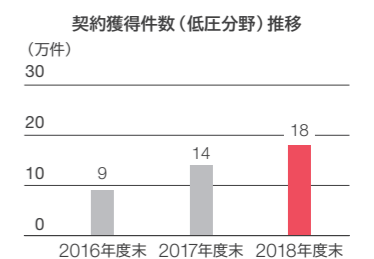
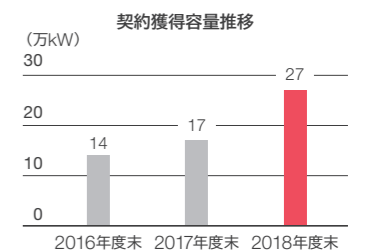
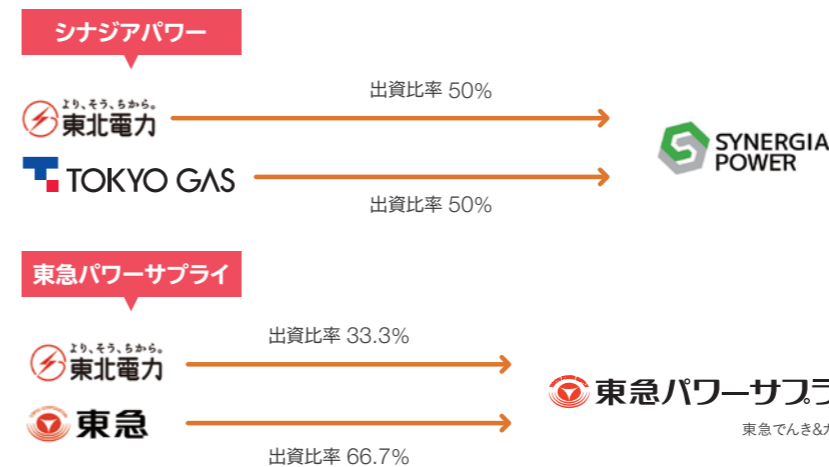
サービスのラインアップ



域外のお客さまへの販売拡大を推進しています

当社は、東北6県および新潟県以外の地域での販売電力量拡大に向けて、関東圏での他社との協業に積極的に取り組んでいます。東京ガス株式会社と共同で設立した「株式会社シナジアパワー」は、2016年4月から北関東を中心とした関東圏の高圧・特別高圧のお客さま向けに電力販売を行っています。

また、株式会社東急パワーサプライ(出資比率:東急株式会社66.7%、当社33.3%)は、東急線沿線にお住まいのお客さまを中心に電力およびガスの販売を行っています。同社の保有する豊富な販売チャネルや強固なブランド力、優れたマーケティング力と、当社の安定的かつ競争力のある電源、およびこれまで培ってきたノウハウ・経験を組み合わせることで、魅力あるサービスの提供に取り組んでいます。



経済性・環境性に優れた 最適な電源バランスを目指して

環境負荷を抑えつつ、良質で低廉な電気を安定的にお届けするため、当社は新たな火力発電設備の計画・建設を進めています。



最適な電源構成の実現に向け取り組んでいます

当社は、地域の復興・発展を支える低廉で安定した電力を供給するため、多様なエネルギーをバランスよく組み合わせた最適な電源構成の実現に取り組んでいます。経済性や環境性に優れた最新鋭火力の開発として、能代火力発電所3号機と上越火力発電所1号機の建設を進める一方、経済効率性の低い経年火力電源の廃止を進めていくこととしています。

また、2019年3月に廃止した緊急設置電源（東日本大震災後の早期の供給力確保を目的とした電源）の秋田火力発電所5号機と、東新潟火力発電所5号機においては、東新潟火力発電所4-1号機にガスタービンを転用することで、廃止設備を有効活用するとともに、運用性や熱効率向上による燃料消費量・CO₂排出量削減を図っていきます。

廃止・長期計画停止

秋田5号 2019年3月廃止

出力 33.3万kW

秋田3号 2019年9月廃止

出力 35万kW

秋田2号 2020年3月長期計画停止予定

出力 35万kW

転用 東新潟4-1号系列 2019年10月着工

運転開始 2020年10月予定

廃止 **東新潟5号** 2019年3月廃止

出力 33.9万kW

廃止 **新潟4号** 2018年9月廃止

出力 25万kW



開発 能代3号 2016年1月着工

出力 60万kW

熱効率 44.8%
[低位発熱量基準]

運転開始 2020年3月予定



開発 上越1号 2019年5月着工

出力 57.2万kW

熱効率 63%以上
[低位発熱量基準]

運転開始 2023年6月予定

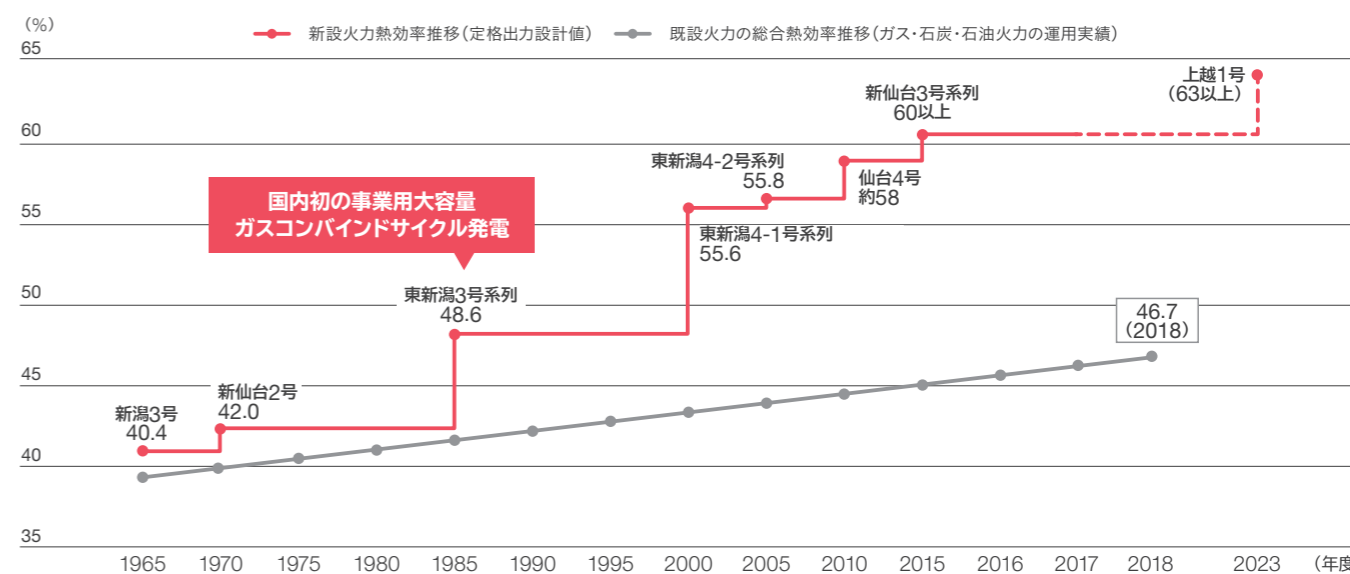


熱効率の高い火力発電技術を導入しています

火力発電における熱効率の向上は、化石燃料の使用量を減少させエネルギー資源の有効利用に貢献することはもちろんのこと、CO₂の排出抑制にも貢献することから、当社は熱効率の高い火力発電技術を積極的に導入しています。

現在建設工事が進んでいる能代火力発電所3号機は、超々臨界圧方式(USC)を導入することにより、既設1・2号機よりも高い熱効率を見込んでおり、また、上越火力発電所1号機では、当社最高の熱効率63%以上となるコンバインドサイクル発電設備として、高い経済性と環境負荷の低減を図っていく予定です。

当社の火力発電所の熱効率の推移(低位発熱量基準)*



* 低位発熱量基準・燃料中の水分および燃焼によって生成された水分の凝縮熱を差引いた発熱量

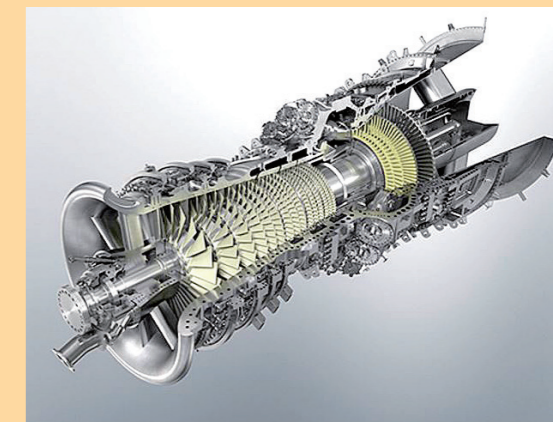
TOPICS

世界最高水準の熱効率への挑戦

当社9地点目の火力発電所となる上越火力発電所1号機は、経済性と環境性に優れた最新鋭コンバインドサイクル発電設備として、世界最高水準となる熱効率63%以上の実現を目指して建設工事を開始しました。

コンバインド発電設備における熱効率向上の要となるガスタービンには、一般社団法人日本機械工業連合会による「平成30年度優秀省エネ機器・システム表彰」の最高位である「経済産業大臣賞」を受賞した、天然ガス火力向け新型ガスタービン「強制空冷燃焼器システム採用次世代ガスタービン」を導入します。

このガスタービンは、エネルギー資源に乏しい我が国において重要な課題である火力発電設備の高効率化と運用性の向上を実現するとともに、CO₂および窒素酸化物(NOx)排出量の低減を図ることを目指して、当社が三菱日立パワーシステムズ株式会社と共同開発したものです。



経済産業大臣賞を受賞した強制空冷燃焼器システム採用次世代ガスタービン

安全性の確保を大前提とした原子力発電の活用

原子力発電所の安全性向上に向け、新規規制基準の枠組みにとどまらず安全対策に取り組んでいます。また、地域の皆さまとの対話を通じた相互理解と信頼関係の構築に努めています。



原子力発電所の安全性向上に向け取り組んでいます

原子力発電は、発電時にCO₂を出さず、燃料であるウランの調達が安定しており、火力燃料費の低減が期待できるという特長があることから、当社は安全性の確保を大前提に、今後も一定の割合で原子力を活用していく必要があると考えています。当社は、新規規制基準の枠組みにとどまらず、発電所の特性と最新知見を取り入れながら、女川原子力発電所2号機については2020年度、東通原子力発電所1号機については2021年度の完了を目指し、安全対策工事を着実に進めていきます。



安全対策工事が進む
女川原子力発電所

地域の皆さまとの双方向コミュニケーションに努めています

当社では、年に2回、発電所員が立地地域の皆さまのご家庭を一軒一軒訪問する「全戸訪問活動」(東通)、「こんにちは訪問」(女川)を継続して行っています。これは、発電所に関する情報をお知らせするとともに、地域の皆さまの貴重なご意見を直接伺うことで、今後の発電所運営に反映していくことを目指した顔の見える活動です。2019年6月には、東通原子力発電所で約2,800世帯(東通村)、また、同年7月から8月にかけては女川原子力発電所で約3,900世帯(女川町と石巻市牡鹿半島部)を訪問しました。今後も、これらの活動を通じて、地域の皆さまから信頼いただける地域に根ざした発電所を目指していきます。



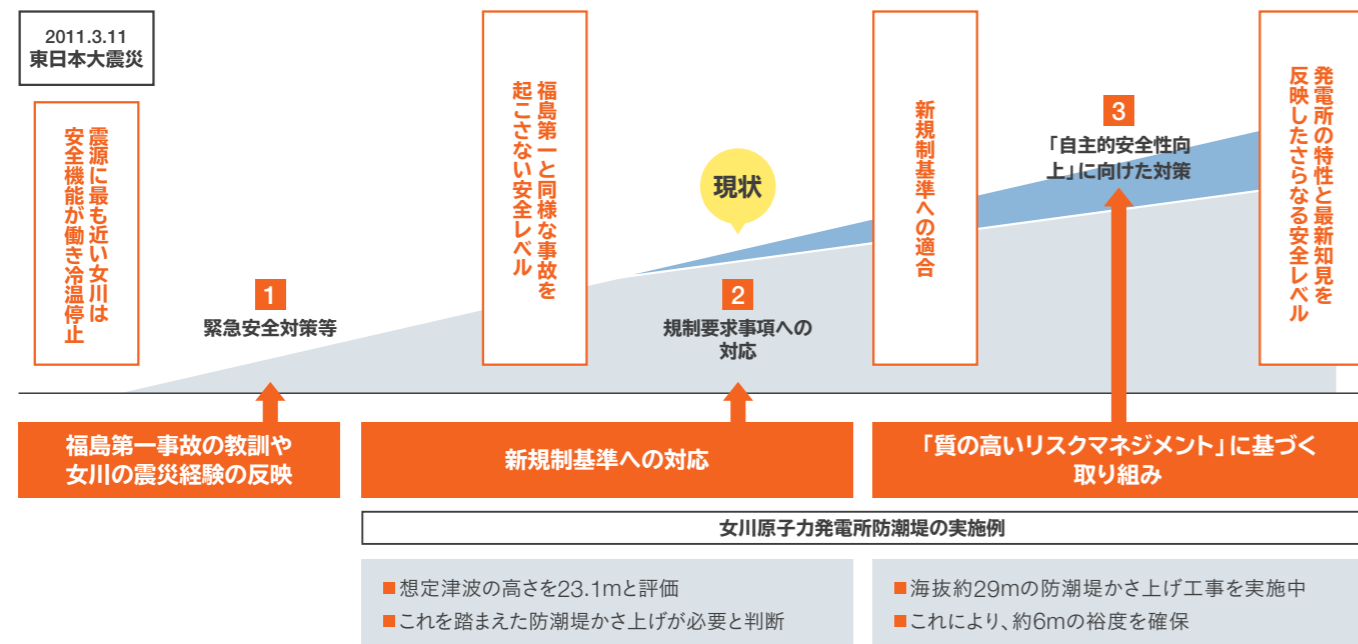
東通原子力発電所
「全戸訪問活動」



女川原子力発電所
「こんにちは訪問」

安全対策工事と継続的な訓練でハード・ソフト両面から安全対策を強化しています

安全性向上に向けた取り組み



女川原子力発電所1号機の廃止手続きを進めています

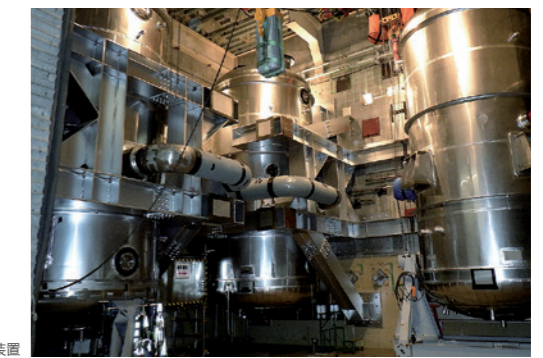
当社は、2018年10月25日に女川原子力発電所1号機の廃止を決定し、2019年7月29日には、廃止措置の工程などを具体的に記載した「廃止措置計画認可申請書」を原子力規制委員会へ提出しました。現在は、申請内容について、原子力規制委員会による審査を受けています。当社としては、同申請が認可された後、34年をかけて、安全確保を最優先に廃止措置に取り組んでいきます。

設備面の取り組み **ハード面**

女川原子力発電所では、津波対策として防潮堤のかさ上げ工事(海拔約29m、全長約800m)や、フィルター付格納容器ベント装置[※]などの設置工事を進めています。東通原子力発電所でも、事故時に必要な冷却水を確保するための淡水貯水槽(約3,600m³×3基)の設置工事がほぼ終了し、現在は、設備の運用手順を検討しています。また、両発電所ともに、運転停止中の安全維持点検をはじめとする各種点検など、プラント設備の保守管理にも取り組んでいます。

[※]原子炉格納容器の過圧破損を防止するために行うベントの際、フィルターを介して放射性物質の放出を大幅に抑制する装置

フィルター付格納容器ベント装置



継続的な訓練の実施 **ソフト面**

設備面の安全対策を確実に機能させるため、機器の操作手順を整備したうえで、徹底した教育を行っています。手順書に基づき、発電所対策本部の運営や通報連絡、原子炉への注水、電源確保などの訓練を継続的に実施し、緊急時の対応力向上に努めています。

事故を想定したシミュレーター装置による訓練

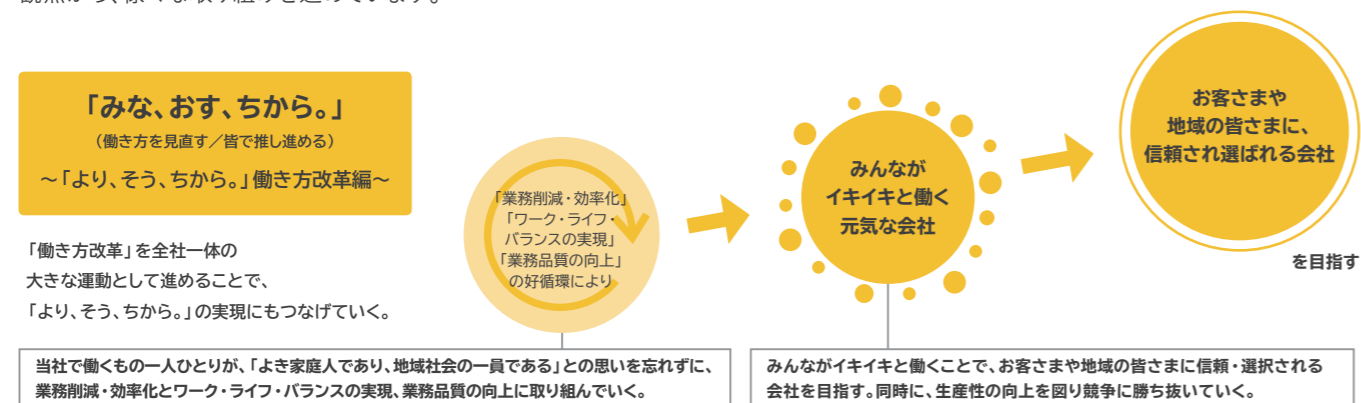


みんながイキイキと働く 元気な会社を目指して

多様な感性や価値観を持った従業員一人ひとりが、能力を十分に発揮しながらイキイキと働ける職場環境づくりに積極的に取り組んでいます。

働き方改革を推進しています

当社では、社長を委員長とする「働き方改革推進委員会」を設置しました。全社一体となって働き方を見直す、皆で推し進めるとの思いを込めたスローガン「みな、おす、ちから。」を策定し、「業務の削減・効率化」、「業務品質の向上」、「ワーク・ライフ・バランスの実現」の観点から、様々な取り組みを進めています。



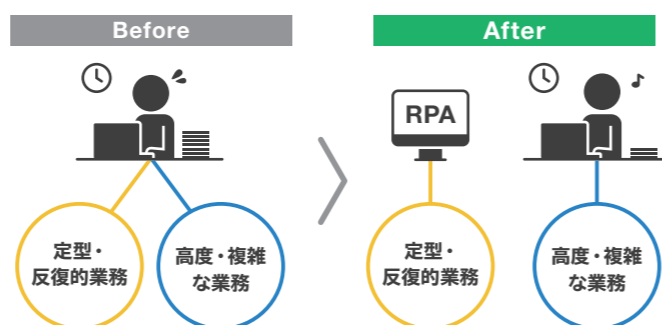
これまでの主な取り組み

■ 新技術を活用した業務効率化に取り組んでいます

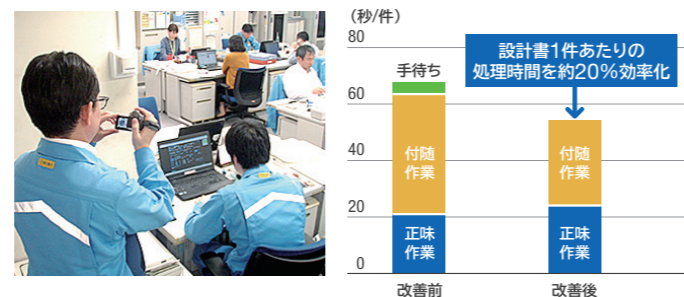
本店の間接部門を中心に、労働時間実績の集計や会計伝票の発行などの大量定型的な業務について、RPA※により自動化を推進しています。

また、AIチャットボットの導入による社内手続きに関する基本的な問い合わせへの対応を省力化しています。

※ロボティック・プロセス・オートメーション(Robotic Process Automation)の略。これまで手作業で行ってきたパソコン上での仕事を自動化し、業務の効率化を図るもの。



VTR解析による配電業務の問題点・ムダの洗い出し (設計書処理業務の例)



■ 「カイゼン活動」を展開しています

当社では、ムダを徹底的に排除し、仕事をより「早く」、「効率的に」、「正確に」行うことで、生産性を上げていく「カイゼン活動」に取り組んでいます。「5S」(整理・整頓・清掃・清潔・躰)を徹底するとともに、VTR解析などを通じて、気づかなかった職場の問題やムダな動作を自ら発見し、「業務のムダ取り」への取り組みを進めています。

■ 新たな勤務制度の導入・拡大を進めています

当社では、ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の実現に向けて、育児休職制度(子が満3歳に達するまで)、介護休職制度(最大2年間)、勤務時間を最大3時間まで短縮できる育児支援勤務時間制度、介護支援勤務時間制度などを導入しています。2018年度からは、さらなる多様な働き方の実現を目指し、在宅勤務制度の導入ならびにフレックスタイム制度の適用を拡大しています。



在宅勤務の様子

TOPICS

働きやすく、働きがいのある職場環境を目指した取り組みを推進しています

性別、年齢、職責を問わない多様な人材が活躍できる職場づくり、仕事と子育てが両立できる職場づくりに向けた当社の取り組みについて、様々な評価をいただいています。

当社は2016年3月、女性活躍推進法に基づき「一般事業主行動計画」を策定し、「2020年3月末までに、女性管理職数(課長級以上)を2015年度期首比で2倍以上とする」という目標を掲げ、2018年3月に前倒して到達しました。また、女性社員と管理職のそれぞれに研修を行い、女性のキャリア形成意識の醸成や、管理職のダイバーシティ推進意識の向上を図っています。

このような取り組みの結果、2018年度には、宮城県より「女性のチカラを活かす企業」のゴールド企業として、そして岩手県より「いわて女性活躍認定企業等(ステップ2)」として認定を受けました。



ダイバーシティ推進

仕事と子育ての両立支援

当社は仕事と子育ての両立を支援する職場づくりに努めています。次世代育成支援対策推進法に基づき「一般事業主行動計画」に掲げた目標を達成したことにより、2008年および2015年に宮城労働局より次世代育成支援企業としての認定を受けました。今後もワーク・ライフ・バランスの実現に向けた取り組みを推進していくこととしています。



さらなる成長に向けた挑戦

当社では、原子力や火力等に加えて、東北・新潟エリアに豊富に賦存する再生可能エネルギーの最大限の活用に取り組むとともに、IoTやAIなどの新たな情報技術の進展による事業環境の変化に先見的に対応し、将来の事業領域拡大に向けた新たな取り組みに挑戦しています。

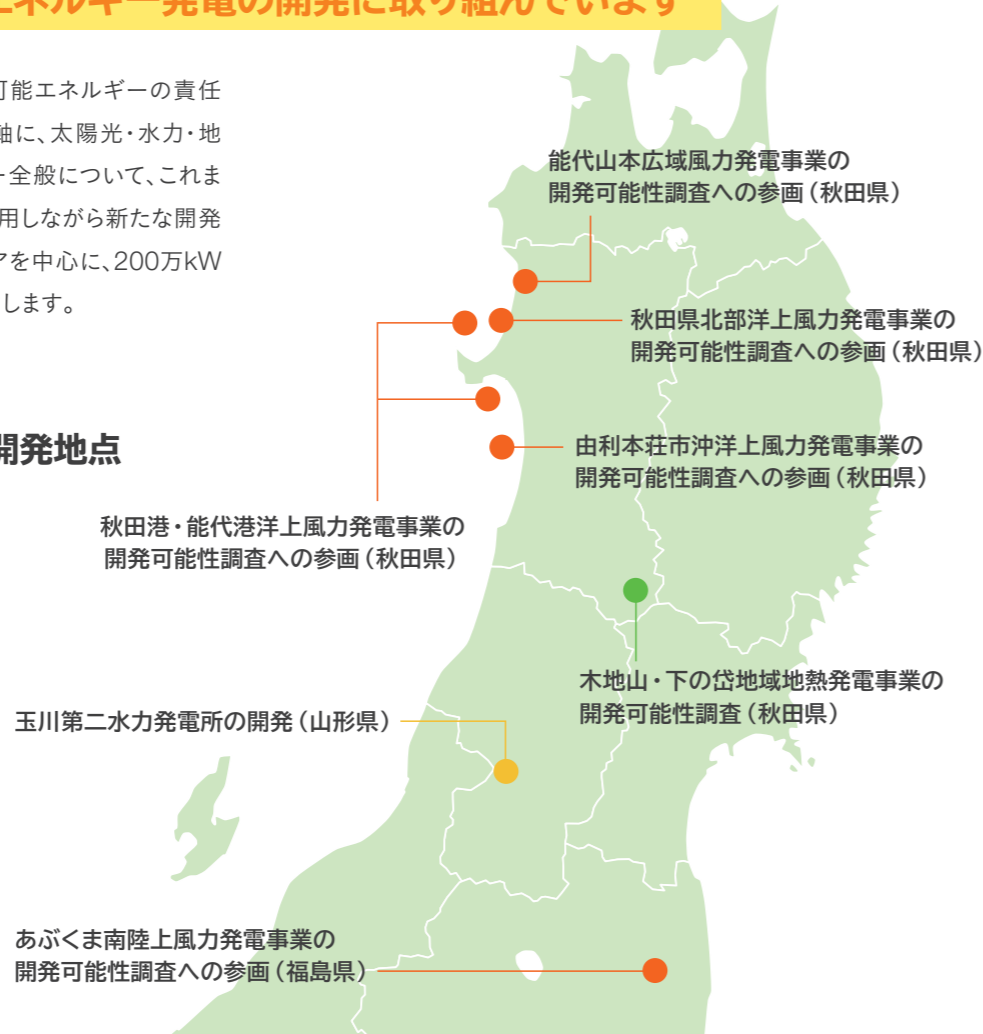


再生可能エネルギー発電の開発に取り組んでいます

当社では、東北・新潟エリアでの再生可能エネルギーの責任ある事業主体となるべく、風力発電を軸に、太陽光・水力・地熱・バイオマスなどの再生可能エネルギー全般について、これまで当社グループが培ってきたノウハウを活用しながら新たな開発や事業参画に取り組み、東北・新潟エリアを中心に、200万kWの再生可能エネルギー発電の開発を目指します。

当社グループの主な再生可能エネルギー発電の開発地点

●風力 ●水力 ●地熱

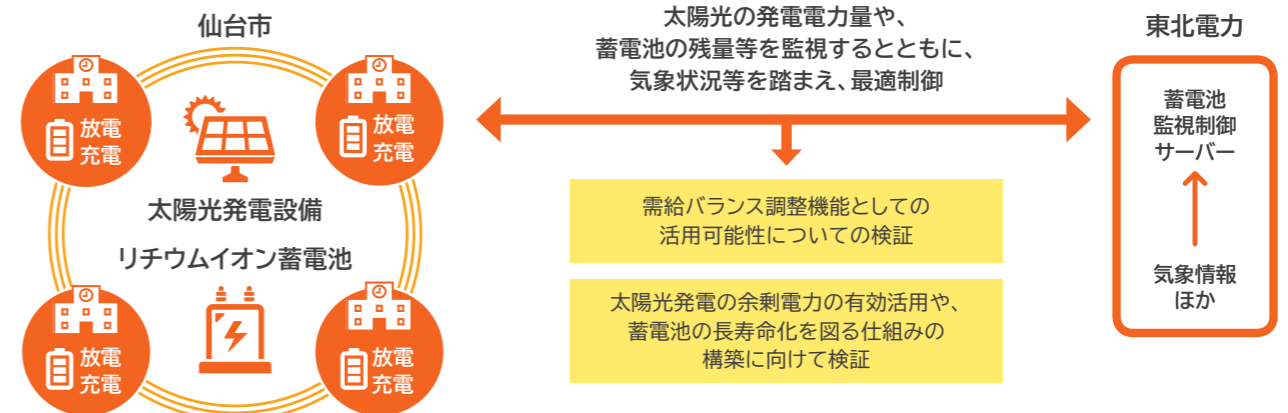


IoTやAIなどの新しい情報技術の活用を推進しています

自治体と連携した地域防災力強化の取り組み

当社は、IoTやAIなどの活用により、地域やお客さまが保有する発電設備や蓄電池を遠隔制御し、集約することで一つの発電所のように機能させる「バーチャルパワープラント (VPP: 仮想発電所) 実証プロジェクト」に取り組んでおり、仙台市や郡山市、新潟市と連携し、VPP技術を活用した地域防災力強化・環境負荷低減に向けた取り組みを実施しています。

仙台市との取り組み例



デジタル技術を活用した再生可能エネルギーの有効活用に向けた宮城県との実証事業連携協定

当社は、デジタル技術を活用した再生可能エネルギーの有効活用に向けた実証事業に連携して取り組むことで宮城県と協定を締結しました。これまで様々な自治体と連携し取り組んできた仮想発電所技術 (VPP) の実証や、電力会社を介さないお客さま同士の電力直接取引 (P2P*電力取引) の実現可能性を検証していきます。

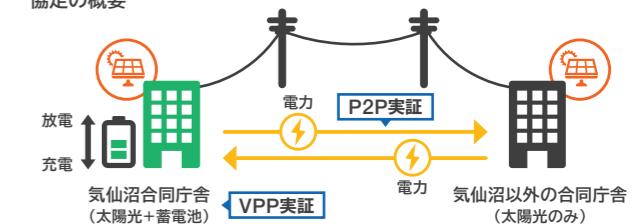
これらの検証を通じ、余剰電力の融通による再生可能エネルギーの有効活用や、新たなエネルギービジネスモデルの検討を加速することで、再生可能エネルギーによる電力の取引活性化、普及拡大を図っていきます。

※Peer to Peerの略。電力会社を介さず、お客さま同士で直接、電力の取引を行うこと。



宮城県と協定締結の様子

協定の概要



TOPICS 日本初の再生可能エネルギー100%の電力による列車の運行を開始しました

当社は、株式会社東急パワーサプライと連携し、東急電鉄株式会社が都内で運行している世田谷線への再生可能エネルギー100%の電力供給を2019年3月25日より開始しました。本取り組みは、当社および企業グループの東北自然エネルギー株式会社が保有する水力発電所、地熱発電所で発電した電気を、株式会社東急パワーサプライを取次事業者として世田谷線へ供給するものであり、これに伴い世田谷線は、都市型鉄軌道線において国内で初めて、通年・全列車が再生可能エネルギー由来のCO₂排出ゼロの電気によって運行しています。



東急世田谷線の出発セレモニーの様子

これからも、安定した電気をお届けするために

送配電カンパニーは、お客さまに安定して電気をお届けするため、設備の日々の巡視や点検、経年設備の取替などのメンテナンスを確実に実施し、停電の未然防止に努めています。

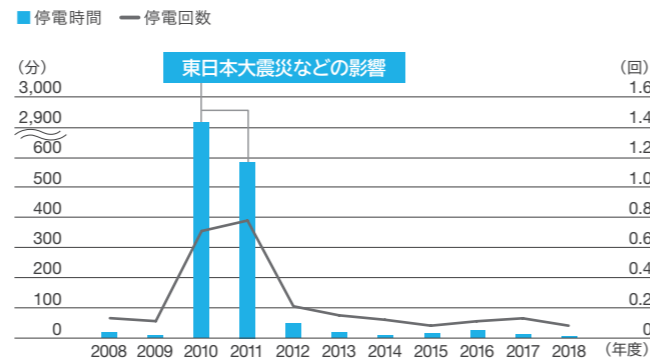


地域の経済や人々の暮らしを支える電気を安定的にお届けいたします

お客さまに安定して電気をお届けするため、送配電設備の日常の巡視・点検や保守工事などによる維持管理を的確に行い、設備の故障や停電の防止に努めています。

また、停電の迅速な復旧に努めるため、地震や台風などの大規模災害時の対応力強化を目的としたさまざまな訓練を実施しています。

お客さま一戸あたりの平均停電回数・停電時間



停電の未然防止に向けたカラスの巣の撤去作業



訓練の様子

お客さまの安全確保にも努めています

電気を送るための電柱・電線などの電力設備の多くは、お使いいただく一般家庭などの生活環境の近くに設置しています。そのため、電力設備の工事を行う際は、バリケードの設置や交通誘導員を配置するなど、周辺のお客さまの安全確保に万全を期したうえで行っています。



工事範囲のバリケード設置



交通誘導員の配置

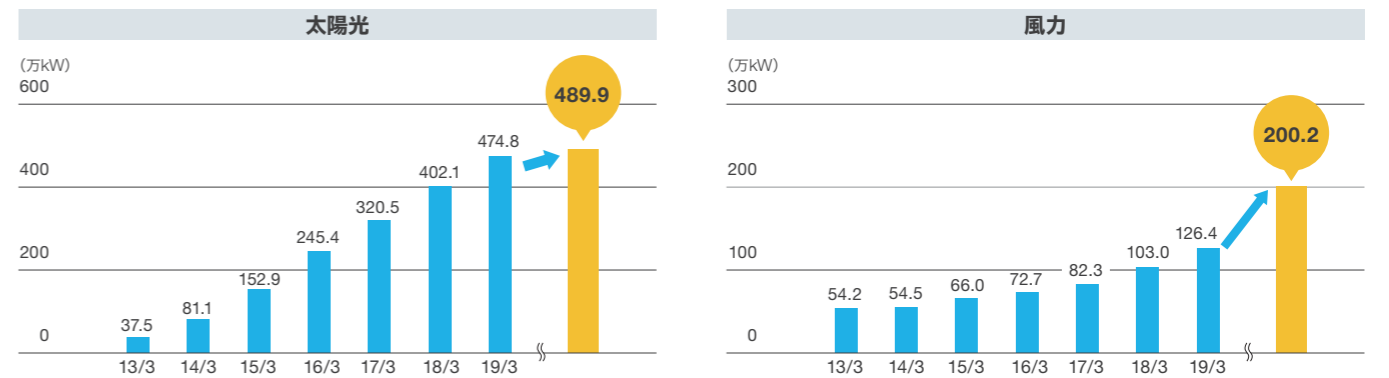
再生可能エネルギー導入拡大への課題に適切に対応していきます

太陽光発電・風力発電などの再生可能エネルギーは、気象条件によって出力が変動するという技術的な課題があることから、当社では需給バランスの維持に努めるとともに、西仙台変電所と南相馬変電所に大規模蓄電池を設置し、周波数・系統電圧の変動抑制対策を行っています。

東北・新潟エリアには風力発電などの再生可能エネルギーに適した地点が多いことから、当社送電線への接続申込みは増加する一方、再生可能エネルギーの当社送電線への接続については容量面の制約があるため、電力広域的運営推進機関と連携のうえ、東北北部エリアをはじめとした「電源接続案件募集プロセス」※などにより適切に対応しています。

※発電設備等を電力系統に連系するにあたって、特別高圧系統の増強が必要となり、系統増強費用が高額となる場合において、その系統増強費用を共同負担いただく事業者を募集するもの

当社管内の太陽光・風力発電設備の連系状況および今後の連系予定量(2019年3月末時点)



TOPICS

日頃の訓練を活かして～台風被害による停電からの復旧に向けた対応～

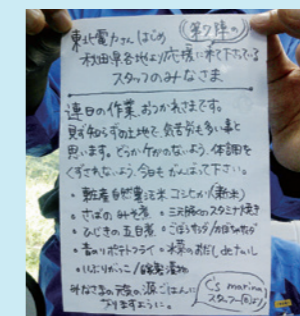
災害が発生した際には、これまで培ってきた経験や日頃の訓練を活かし、停電からの早期復旧に全力で取り組んでいます。

2019年9月に発生した台風15号では、関東を中心に大規模な停電が発生しました。当社では、東京電力パワーグリッド株式会社の要請を受けて19日間にわたり応援派遣を実施し、早期復旧に取り組みました。また、同年10月に発生した台風19号では、当社管内でも多くの停電が発生したため、グループ会社一丸となって復旧作業にあたり、浸水や道路の寸断などにより着手することが困難な地域を除き発災から4日間で復旧を完了しました。

応援派遣の状況や復旧状況については、当社の公式Twitter等により積極的に情報発信を実施しており、また、被災地からも多くの温かいメッセージが寄せられています。



倒木を除去しながらの作業(台風15号)



被災地より寄せられた温かいメッセージ



冠水地域における巡視の様子(台風19号)

地域の一員として地域に寄り添い、ともに成長していく

「東北の繁栄なくして当社の発展なし」という創立以来の基本的な考えのもと、「地域社会から信頼され選択される東北電力」を目指して様々な施策を展開しています。

地域の一員として、地域の皆さまとの信頼関係構築に努めています

当社には、創立以来脈々と受け継がれ、事業活動の基底をなす精神として、「地域協調」の考え方があります。地域協調とは、社員一人ひとりが地域社会の一員としての責任と役割を果たし、地域の皆さまとの相互理解を深め、地域社会との信頼関係を作りあげていく考え方であり、当社では企業グループ一体となってこの地域協調に取り組んでいます。

「山形花笠まつり」への参加

山形市内事業所、企業グループ



東北を代表する夏まつりとして全国的にも親しまれている「山形花笠まつり」に、踊り手として東北電力グループ総勢約200名が参加しました。

公園伐採支援活動

釜石電力センター、岩手三陸営業所



「地域ふれあい月間」の活動の一環で大槌町と連携し、大ヶ口（おがぐち）公園の樹木伐採、剪定作業、落葉片付け、清掃等を実施しました。

企業グループ各社における取り組み

東北電機製造（株）

読書通帳の寄贈



東北電機製造（株）では、2019年3月、多賀城市立図書館（宮城県）に読書通帳を寄贈しました。読書通帳は、2016年3月にオープンした多賀城市立図書館で採用され、同年社名入りの読書通帳を多賀城市を通じて、多賀城市の小中学生に寄贈していました。今回で2回目の寄贈となり、平成の次の世代を担う子どもたちの知識・感性が豊かになることを願っています。

日本海エル・エヌ・ジー（株）

ヒラメの稚魚の放流



日本海エル・エヌ・ジー（株）では、創立40周年事業として、地元の園児を招き、約3万匹のヒラメの稚魚を放流しました。本取り組みは、漁業経営の安定を図るため、当社が立地する新潟県の聖籠町（せいろまち）と町の漁業協同組合が40年以上続けており、同社の参加により、今回は例年より多くの稚魚を放流しました。ヒラメが無事成長していき、豊かな自然を育てていくことを願っています。



地域で暮らす人たちを応援しています

当社は、地域の未来を担う子どもたちの成長や地域で暮らす女性の活躍を応援する活動、地域イベントへの協力、自治体への街路灯寄贈など、社会に貢献する取り組みを推進しています。

次世代支援プロジェクト「放課後ひろば」



「東北電力旗東北ミニバスケットボール大会」への協力、「中学生作文コンクール」や「エネルギー出前講座」の実施など、子どもたちがのびのび育つ環境づくりに取り組んでいます。

女性向けコミュニティ誌『Yui（結い）』の発行



幅広い世代の女性の皆さまとのコミュニケーションツールとして、東北6県と新潟県の魅力をお伝えするコミュニティ誌の『Yui（結い）』を年に3回発行しています。

地域がもっと元気に輝くためのお手伝いをしています

当社は、地域のまちづくりを応援する取り組みや、地域課題解決に向けた活動へのサポートなど、地域の元気を引き出す様々な取り組みを行っています。

「まちづくり元気塾」



地域活力の再生や自立に向けて課題解決に取り組む団体に対し、まちづくりの専門家を派遣し、地域の主体的なまちづくり活動を側面からサポートしています。

「東北・新潟の活性化応援プログラム」



地域産業の振興や地域コミュニティの再生・活性化、交流人口の拡大など、地域課題解決に向けた自主的な活動を行っている団体を助成金によりサポートしています。

国際協力・交流活動を通じ、地域の発展に貢献しています

当社は、国際交流が地域の発展につながるの考えのもと、ASEAN諸国からの技術研修生受け入れや、東北日本カナダ協会の運営などを通じた国際協力・交流活動を推進しています。

（一社）海外電力調査会が実施するASEAN研修への協力



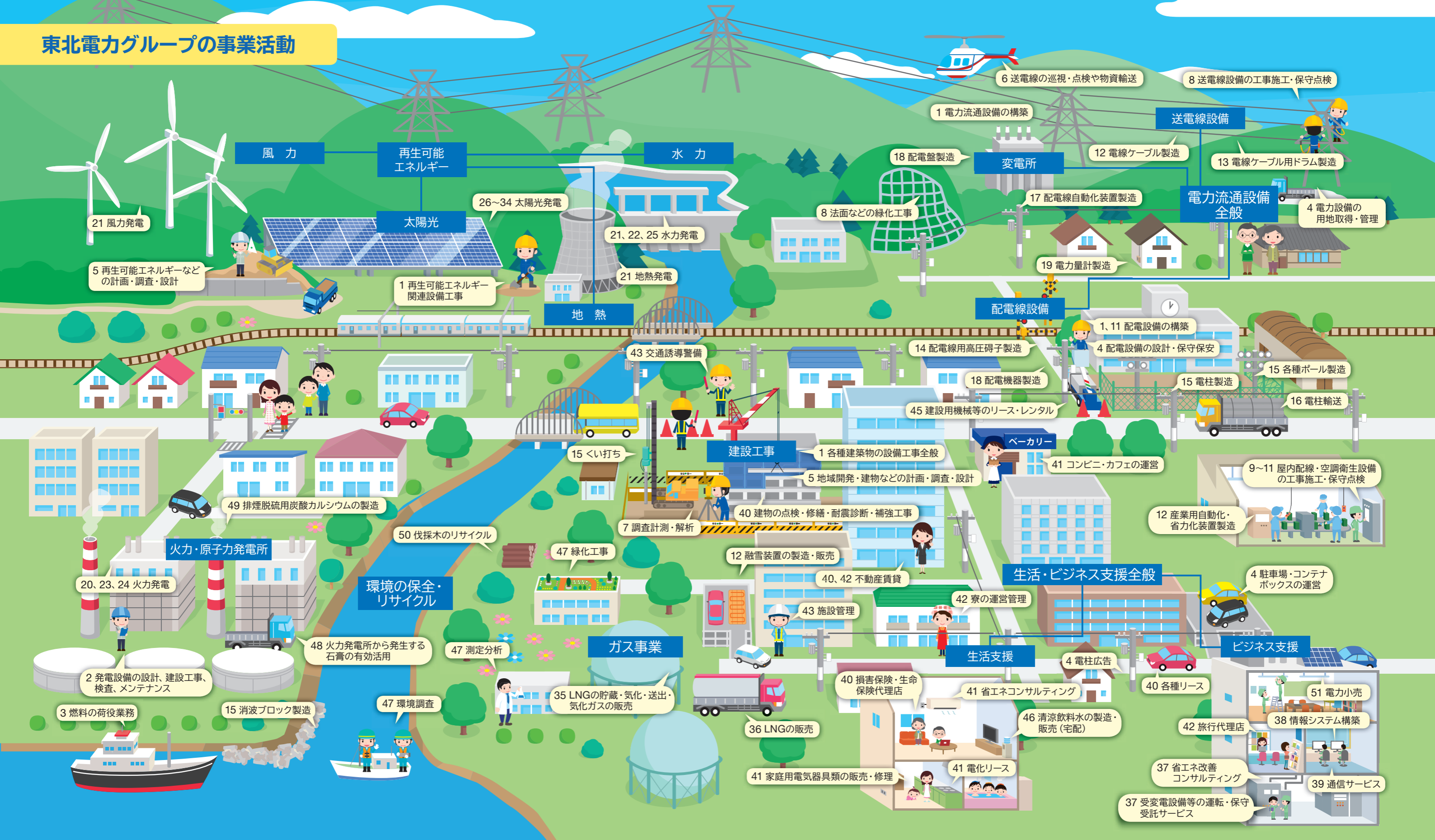
ASEAN諸国の電力基盤整備や人材育成を目的に実施される協力事業に賛同し、研修生を受け入れるとともに、現地セミナーに当社社員を専門家として派遣しています。

「東北日本カナダ協会」の運営や国際交流への協力



東北日本カナダ協会の事務局運営を通じ、日加間の相互理解と友好親善の促進を図るほか、東北と諸外国との交流促進を図る諸団体への協力を行っています。

東北電力グループの事業活動



- 電気事業関連設備の建設・保守**
- 1 株式会社 ユアテック
 - 2 東北発電工業 株式会社
 - 3 東北ポートサービス 株式会社
 - 4 東北送配電サービス 株式会社
 - 5 株式会社 東北開発コンサルタント
 - 6 東北エアサービス 株式会社
 - 7 株式会社 東日本テクノサーバイ
 - 8 株式会社 ユートス
 - 9 株式会社 ユアテックサービス

- 10 株式会社 テクス福島
 - 11 株式会社 ユアテック配電テクノ
 - 株式会社 ユアテック宮城サービス
 - 株式会社 ユアテック関東サービス
- 電気事業関連機器の製造**
- 12 北日本電線 株式会社
 - 13 北日本電線サービス 株式会社
 - 14 会津碍子 株式会社
 - 15 東北ポール 株式会社

- 16 東北ポール運送 株式会社
 - 17 通研電気工業 株式会社
 - 18 東北電機製造 株式会社
 - 19 東北計器工業 株式会社
- 発電**
- 20 常盤共同火力 株式会社
 - 21 東北自然エネルギー 株式会社
 - 22 荒川水力電気 株式会社
 - 23 酒田共同火力発電 株式会社

- 24 相馬共同火力発電 株式会社
- 25 株式会社 アクアパワー東北
- 26 ソーラーパワー久慈 株式会社
- 27 ソーラーパワー夢ヶ沢 株式会社
- 28 ソーラーパワー白石 株式会社
- 29 ソーラーパワー久慈枝成沢 株式会社
- 30 ソーラーパワー石巻雄勝 株式会社
- 31 ソーラーパワー宮城 株式会社
- 32 福島発電 株式会社
- 33 株式会社 ユアソーラー富谷

- 34 株式会社 ユアソーラー保原
 - あぶくま南風力発電 合同会社
- ガス事業・エネルギーソリューション**
- 35 日本海エル・エヌ・ジー 株式会社
 - 36 東北天然ガス 株式会社
 - 37 東北エネルギーサービス 株式会社

- 情報通信**
- 38 東北インフォメーション・システムズ 株式会社
 - 39 東北インテリジェント通信 株式会社
- 生活・ビジネス支援**
- 40 東日本興業 株式会社
 - 41 株式会社 Eライフ・パートナーズ
 - 42 株式会社 エルタス東北
 - 43 株式会社 トークス
 - 44 TDGビジネスサポート 株式会社

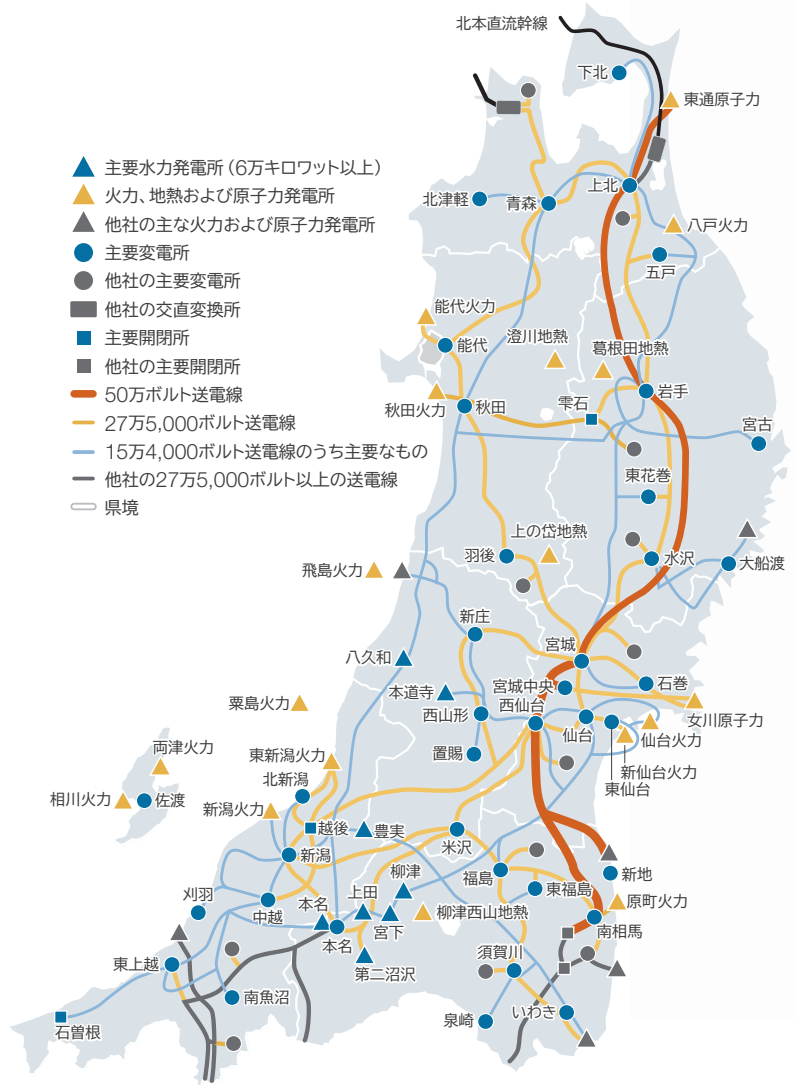
- 45 株式会社 ニューリース
 - 46 株式会社 アクアクララ東北
 - 東北電力フレンドリー・パートナーズ 株式会社
- 環境の保全・リサイクル**
- 47 東北緑化環境保全 株式会社
 - 48 能代吉野石膏 株式会社
 - 49 東北エコ・テクノ 株式会社
 - 50 グリーンリサイクル 株式会社

- 電気事業**
- 東北電力 株式会社
 - 東北電力ネットワーク 株式会社
 - 株式会社 シンシアパワー
 - 東北電力エナジートレーディング 株式会社
 - 株式会社 東急パワーサプライ

会社概要

会社名 東北電力株式会社 Tohoku Electric Power Co., Inc.
本店所在地 〒980-8550 仙台市青葉区本町一丁目7番1号
設立年月日 1951年5月1日
資本金 2,514億円
総資産 42,586億円 (2019年3月末実績)
売上高 22,443億円 (2018年度実績)
経常損益 657億円 (2018年度実績)
代表者 取締役会長 海輪 誠
 取締役社長 社長執行役員 原田 宏哉
 (2019年6月末現在)
株主数 171,598名 (2019年3月末現在)
供給区域 青森県・岩手県・秋田県・宮城県・山形県・福島県・新潟県ほか
社員数 12,189名
販売電力量 電灯 22,745百万kWh
 電力 46,130百万kWh
 合計 68,876百万kWh
 (2018年度実績)

※四捨五入により個々の数値の計と合計が合わない場合があります。資本金、総資産、売上高、経常損益は連結実績。なお、右図は2019年3月末現在



設備の概要 (2019年3月末現在)

発電所	水力	209箇所	245万kW
	火力	12箇所	1,143万kW
	地熱	4箇所	19万kW
	太陽光	4箇所	0.48万kW
	原子力	2箇所	275万kW
合計	231箇所	1,682万kW	

送電設備	こう長	15,330km	配電設備	こう長	147,934km
	回線延長	24,996km		電線延長	587,638km
	支持物	58,457基		支持物	3,126,235基
変電設備	630箇所	7,838万kVA			

※1 四捨五入により個々の数値の計と合計が合わない場合があります ※2 こう長は、鉄塔や電柱など支持物間の水平距離の合計です ※3 回線延長は、こう長に回線数を乗じたものの合計です ※4 電線延長は、添架されている電線・ケーブルの長さの合計です

YouTube 東北電力公式チャンネル

東北電力では公式YouTubeチャンネルを公開しております。同チャンネルでは、当社のテレビCM動画等をご覧ください。



YouTube東北電力株式会社
<https://www.youtube.com/channel/UCG4KK1iSIFOThRaWehDWxAQ>



YouTube東北電力ブランドチャンネル
<https://www.youtube.com/channel/UCzLXqTQFB3RxRsEXL2OP7QA>

Facebook ページ「より、そう、ちから。東北電力」

東北電力の販売部門が運用を行うFacebookページです。みなさまの暮らしのカタチひとつひとつにより近い、豊かなライフスタイルを作り出せるよう、エネルギーやサービス、地域の情報などをお届けしています。



<https://www.facebook.com/yorisou.tohoku.epco>

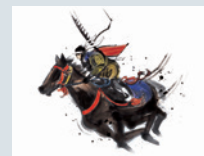
Twitter 東北電力公式Twitter

東北電力からのお知らせや災害時の停電情報などをお伝えしています。



<https://twitter.com/Tohokudenryoku>

表紙イラスト



のまおい 相馬野馬追 (福島県南相馬市)
 相馬氏の始祖・平将門に由来し千余年の歴史ある勇猛果敢な甲冑競馬。合戦さながらの神旗争奪戦。先祖伝来の旗指物をなびかせ、砂塵の中を駆け抜けます。

仙台七夕まつり (宮城県仙台市)

藩祖・伊達政宗も和歌に読んだ夏の風物詩。仙台商人の心意気で第二次大戦後の衰退から復活を遂げた七夕まつりは現代に受け継がれ、約3,000本を超す豪華絢爛な笹飾りが風に舞います。



齊藤 薫 書家/イラストレーター

宮城県石巻市生まれ。2007年よりフリーランスのイラストレーターとなる。墨絵をはじめとする幅広いタッチのイラストとロゴ、題字等の筆文字制作で活躍中。